

学科名	建築・デザイン学科						
科目名	鋼構造及び演習						
科目区分	専門科目	単位数	3単位	開講時期	2年時前期		
必修・選択の別	必修科目(建築工学コース)／必修科目(建築コース)／—(デザインコース)						
担当者	奥野 賢二						
授業の到達目標(シラバスから)	<ul style="list-style-type: none"> <li>鋼の応力度－ひずみ度関係を通じて、鋼の降伏や強度を理解し基本的な許容応力度設計ができる。</li> <li>想定した荷重により、その設計方針や安全性を評価した計算ができる。</li> <li>座屈現象の概念から、基本的な圧縮材の座屈荷重の計算ができる。</li> <li>接合部や部材の個別設計ができる。</li> </ul>						
内容	9月19日 9月26日 10月 3日 10月10日 10月17日 10月24日 10月31日 11月 7日 11月14日 11月21日 11月28日 12月 5日 12月12日 12月19日 1月 9日 1月16日	第1回:ガイダンス 第2回:鋼材の性質 第3回:引張力を受ける部材の設計 第4回:圧縮力を受ける部材の設計－1 第5回:圧縮力を受ける部材の設計－2 第6回:曲げを受ける部材の設計－1 第7回:曲げを受ける部材の設計－2 第8回:曲げを受ける部材の設計－3 第9回:曲げを受ける部材の設計－4 第10回:曲げと軸力を受ける部材の設計－1 第11回:曲げと軸力を受ける部材の設計－2 第12回:接合部－1 第13回:接合部－2 第14回:まとめ－1 第15回:まとめ－2 第16回:定期試験(120分) 注:試験範囲は第1回から前回までの授業総てとする。					
成績評価基準	定期試験(60%)と授業中の演習(40%)の成績を総計して評価点とする。						
授業到達目標の達成度	圧縮力及び軸方向力を受ける部材の断面設計方法については概ね達成できたと思われる。						
反省点	基礎的な力学に対する理解が不足していると思われる、特に力の釣合い条件及び力と変形に関する説明を行う必要がある。 長期及び短期荷重に対する理解を徹底する必要がある。						
来年度の計画	来年度も復習を兼ねて演習問題の解説を行う事が必要である。						
授業評価アンケートに対するコメント	毎年のものであるが授業内容が難しいとの意見があるが、建築構造に関して最低条件の知識を習得するための授業を行っている。						
履修登録者数	91名	定期試験受験者数	78名	合格者数	44名	合格率	56%